

わかると快感！

Z会ナビ

算数 理科 ▶歴史 地理

お題

古代の税は10世紀はじめに大きく変わった？

(京都大学 2014年 白本史)

「Z会ナビ」が

Webサイト

でも読めます！



Z会おとナビ新聞

検索

これまでの内容も掲載しています！

9世紀から10世紀に政府の税の収入が減少し、政府はさまざまな方法で収入を確保しようとしてきました。10世紀はじめの変化に気をつけながら、9世紀から10世紀の政府の税を取り立てるしくみがどのように変化したか、説明しなさい。

税は国のあり方をあらわす、大きなしくみの一つです。4月から増える消費税のほか、現代の日本にもさまざまな税がありますが、昔はどのようなしくみだったのでしょうか。

納めたのはお金じゃなかった

日本で「政府」と呼べるようなしくみと制度が整ったのは、8世紀ごろ、奈良時代と呼ばれる時代のことです。政府には、国の政策に使ったり、政策を行う役人に払ったりするための収入が必要です。その収入は国民から得るよりほかありませんので、政府は国民から税を取り立てるしくみを作りました。

それは、政府が戸籍・計帳という全国民を登録した書類を作り、それをもとに人ごとに政府に納める税の額を決めるというしくみでした。税には地方の特産物なども含まれましたが、大部分は米でした。6歳以上の国民にはもれなく田んぼを配布し、その田でとれた米の何割かを納めさせたのです。田の面積や税の割合は、年齢や性別により異なり、一番の働き手である成年男性にはとくに重い負担が課せられました。

税のしくみの破綻

しかし、あまりにもその負担が大きかったた



イラスト・瑞木匠

税金の今と昔

め、人々は税逃れを始めます。税負担の少ない女性や子ども・老人などに性別・年齢を偽る、各地をさまよって戸籍の登録を逃れる、税負担のない僧侶を勝手に名乗る……などなど、さまざまな手段がとられたのです（このあたりは、以前も一度取り上げましたね）。電話もメールも郵便もなかった時代、京都に拠点のある政府が全国の住民を把握することはただでさえ難しいことでした。そのような中、人々が税逃れを始めたことで、政府はきちんとした戸籍・計帳を作ることができなくなってしまったのです。

大きな方針転換

税の額を決めるための戸籍・計帳がなければ、税を取り立てられません。そこで、政府は直営の田を増やし、農民に耕作させて税を納めさせることにしました。しかし、その農民も税逃れをしたり、勝手に田を自分のものにしたりと、うまくいきませんでした。

10世紀になると、政府は戸籍・計帳による国民の管理をあきらめ、人ではなく田に税を課すようになりました。有力農民に田の耕作を任せ、地方に派遣した国司という役人に農民と税の管理を一任したのです。奈良時代以来、全国民を管理しようとしてきた政府が、地方の管理を放棄した、大きな方針転換でした。

この転換により、政府は苦勞をせず一定の税を手に入れられるようになりました。一方、地方への政府の影響力が弱まり、のちに地方で力をつけた農民が武装し、武士となって政府を脅かすことにもつながりました。

【Z会・河原井彩】

！今回の教訓

税は国を支える大事なしくみです。現代の税逃れは犯罪ですので、くれぐれもしないよう。



河原井彩さん 2007年にZ会入社。大学受験用の日本史、政治・経済の教材編集を経て、現在はデジタル技術を使った未来の教材を考えています。新潟県生まれの埼玉県育ち。